

2024年12月例会

茨城県東海岸縦断その5 東海～大洗

開催日	2024年12月7日(土)
集合場所	JR常磐線 東海駅東口
集合時間	8時50分～9時10分 9時15分スタート
コース	東海駅東口～村松虚空蔵尊～常陸那珂港IC付近 ～阿字ヶ浦海岸～酒列磯前神社～大ちゃん通り ～平磯海浜公園(昼食)～平磯海水浴場(昼食) ～那珂湊おさかな市場～海門橋～大洗海岸 ～大洗磯前神社～(かねふくめんたいパーク)～大洗駅
ゴール時間	15時20分 鹿島臨海鉄道 大洗駅
距離	27km 団体歩行
参加人数	18名
天候	晴れ

ウォーキング状況

「茨城県東海岸縦断その5」今回は東海駅から大洗駅までの約27kmのコースです。

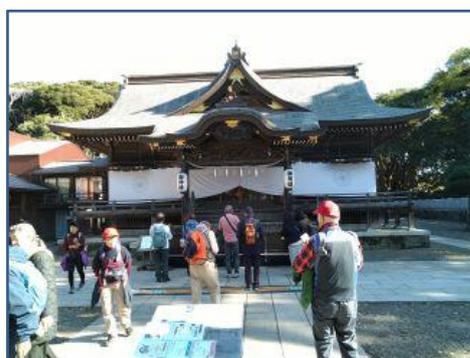
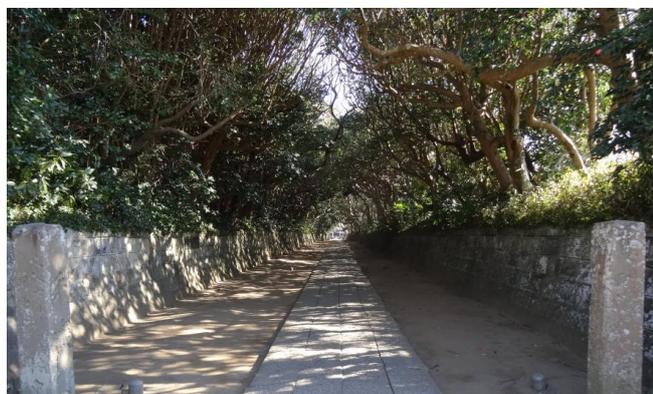
今回も晴天に恵まれ、まずは東海駅から村松虚空蔵尊まで戻り、東海岸のスタートです。

原燃前の道を進み、国道255号に出て坂道を登り常陸那珂港区入口の信号を右折し海岸を目指します。海岸への道は片側二車線、歩道も立派なのですが、人が通らないのか整備がされてなく、葛のツルに足を取られないように慎重に1km程進むと、海岸線に沿って工業団地が現れます、その広い道路を右折し、日立建機、小松製作所の工場前、常陸那珂港ICを過ぎて、阿字ヶ浦海岸へと出ます。下見の時は多くの方が、海岸で遊んでいましたが、本日は人影はありませんでした。近くには、「ほしいも神社(欲しいものは総て手に入る)」(堀出神社)が有るそうですが、時間の関係で立ち寄れなくすみませんでした。

参考迄に神社のHP <https://horide-hachiman.com/>

阿字ヶ浦駅から徒歩100mの所にあります。

坂を登ると、酒列磯前（さかつらいそさき）神社の鳥居です。
参道の樹叢はタブノキが特有の奇観を呈して霊域の雰囲気を感じさせます。
ここには樹齢300年のヤブツバキもあるそうです。



本殿を参拝後、いそぎ温泉ホテル前にある古墳群を通り、海岸線に出る階段で記念撮影。



海岸線には東へ 30～40 度傾斜した岩礁が連続して見えていて、これは「那珂湊層群」と総称される中生代白亜紀の地層だそうです。磯崎海岸から平磯海岸まで続いています。



岩石は砂岩、泥岩、礫岩などからなり、軟かい部分が波に浸蝕され、硬い部分が残って鋸(のこぎり)歯状を呈しているとのこと。地層からはアンモナイト・ウニ・二枚貝・サメなどの化石も発見されています。特に、この地域から発見されるアンモナイトは、平巻きではなく、巻き貝のように塔形の種類が多く、異常巻アンモナイトの群棲地(ぐんせいち)として有名です。アンモナイトは、約 7,500 万年前の中生代白亜紀に棲息していたもので、アンモナイトの発見は、茨城県内最初の中生代地層の発見でした。ちなみに、中世代白亜紀とは一億 4 5 0 0 年～6 6 0 0 年前の時代です。



磯崎からの道は「大ちゃん通り」と呼ばれ、太平洋を眺めながら進みます。途中の道路横の空地で昼食休憩をした後、平磯海岸でトイレ休憩、19k m 参加者はここでお別れですが、皆さん大洗を目指します。

那珂湊漁港のおさかな市場に到着です。多くの観光客で賑わっています。焼き牡蠣、回転寿司、干物等々・・・美味しそうと見ながら通過です。



赤い海門橋を渡ると大洗町です。大洗水族館の横を通り、大洗海水浴場の大きな駐車場の中を進みます。さらに行くとも店前にアンコウがぶら下がっています（アンコウ鍋美味しそう）
左手に「神磯の鳥居」がみえてきました、大洗磯前神社です。



急な階段をやすやすと登り参拝です。
来年の干支の絵馬もお迎えしてくれていました。

参拝後、かねふくめんたいパークの横を通り港中央公園横を右折し
きらめき通りを登って大洗駅到着です。
大洗に入り少し急ぎ足となりましたがご容赦下さい。
大洗町も見所があるので別途単独でコースを考えてみます。
皆さん、お疲れさまでした。

最後に、酒列磯前神社と大洗磯前神社について

平安時代に編纂された歴史書である「文徳天皇実録」によれば斉衡三年(856年)12月29日に常陸国鹿島郡大洗の海岸に御祭神大名持命・少彦名命が御降臨になり、塩焼きの一人に神がかりして、「我は大奈母知、少比古奈命なり。昔此の国を造り訖へて、去りて東海に往きけり。今民を済わんが為、亦帰り来たれり」(現代意識：私は大名持、少彦名命である。日本の国を造り終えてから東の海に去ったが、いま再び民衆を救うために帰ってきた。)と託宣され、「酒列磯前神社」が現在のひたちなか市磯崎町に創建され、また同時期に現在の東茨城郡大洗町には「大洗磯前神社」が創建されました。

少彦名命が酒列磯前神社の主祭神に、大名持命は大洗磯前神社の主祭神としてお祀りされるに至りました。

御創建の由緒からもわかるように酒列磯前神社と大洗磯前神社は二社で一つの兄弟神社となっております。

御創建の翌年の天安元年8月には官社に列せられ、更に10月には「酒列磯前薬師菩薩明神」の神号を賜りました。

延喜の制では名神大社に、明治18年4月には国幣中社に大洗磯前神社と共に列されました。

また、昭和38年に奈良の平城宮跡の発掘調査が行われたとき、多量の木簡が出土した中に「常陸国那珂郡酒烈埼所生若海菜」と記された墨書文字が発見されました。

これは今から約1300年前の昔、酒列磯前神社に奉納したこの地方のわかめを天平文化の栄えた奈良の平城宮まで頒納されていたのであり、また遠いその昔より、酒列磯前神社の御神威が顕著であり、著名なお社として全国的な尊崇を集めていたことを物語っています。

少彦名命(スクナビコナ)は、国造りの協力神、常世の神、医薬・温泉・禁厭(まじない)・穀物・知識・酒造・石の神など多様な性質を持つ。

以 上
記 松崎 寛